

第3章

歴史的風致の
維持及び向上に関する方針

3-1. 歴史的風致の維持及び向上に関する課題

(1) 歴史的建造物や伝統行事等の認知度向上に関する課題

本門寺五重塔等の重要文化財や大田区内外から大勢が集う御会式をはじめとする伝統行事等、大田区内には周知の歴史・文化資源が多数みられる。一方で、地域の社寺や町内等で受け継がれ、地域のみで認知されている歴史的建造物や祭礼等の歴史・文化資源も数多く存在している。

これら地域のみで認知されている歴史・文化資源は、地域住民にとっては身近なものであり、その希少性や重要性は認識されているものの、なかには学術的な調査や検証、価値付けが十分に行われていないものもあり、多くの人がその魅力に気が付かず、保存や活用のきっかけを失っている場合がある。

(2) 歴史的建造物の保存・活用の推進に関する課題

歴史的建造物のなかには個人所有のものが少なくない。国、都、大田区の指定文化財のうち、有形文化財(建造物)の12件は全てが社寺所有であるが、国登録有形文化財(建造物)は、31件のうち14件が個人宅である(その他、商店等として利用されている建造物もある)。

これら指定・登録文化財だけでなく、未指定文化財を含めた歴史的建造物のなかには、その所有者の高齢化や後継者不足、代替わり後の保護意識の希薄化、また維持管理・保存に必要な費用等を理由に十分な管理が行われず、荒廃が進むものもある。また、歴史的建造物の価値に対する認知度の低さ等から、市街地の開発が進むなかで知らないうちに解体や改変が行われる場合もみられる。

一方、歴史的建造物の活用に関しては、大田区が所有または管理する建造物をはじめ、所有者に協力を得た社寺等一部の建造物では一般公開を行っているが、施設の耐震性等見学者に対する安全性が十分に確保できていないものも存在する。また、駐車場やトイレ等の快適性、さらには施設の由緒書きや施設を巡り散策するための情報提供等、ハード・ソフトの両面からの整備が十分であるとはいえない。

(3) 歴史的建造物の周辺環境の保全と向上に関する課題

大田区では、平成 25 年(2013) 4 月に「大田区景観条例(平成 25 年 3 月 15 日条例第 16 号)」を施行し、同年 10 月には「大田区景観計画」を施行した。現在、大田区では、景観法、条例及び景観計画に基づいて、市街地類型別や景観形成重点地区別等の立地特性に応じた良好な景観の形成の誘導を進めている。

しかし、特に、開発が進む新陳代謝^{しんちんたいしや}が激しい地域においては、歴史的建造物の周辺が必ずしもそれら建造物を引き立て、または調和する環境になっているとは必ずしも言えない。

大田区景観計画における景観誘導の主な対象となっている民間の建築物だけでなく、公共建築物、道路、河川、公園等の公共施設も周辺環境を構成する要素の一部であるが、歴史的建造物を引き立てる、または調和する形態意匠となるよう工夫されているとは言い難い状況である。

(4) 人々の歴史や伝統を反映した活動の継承と活性化に関する課題

大田区には、御会式^{せんぶえ}や千部会等の池上本門寺^{いけがみほんもんじ}(日蓮宗^{にちれんしゅう})に関わる行事、水止舞^{すいしまい}や六郷^{ろくごう}神社^{じんじや}の流鏝馬^{やぶさめ}をはじめとする文化財に指定されている伝統行事等、多くの区民に親しまれている活動が多数ある。またその他にも、除病^{じよびょう}習俗^{しゅうぞく}等地域の伝承^{なりわい}や生業^{なりわい}と結びついた伝統行事や民俗芸能、社寺に関わる祭礼等、歴史や伝統を反映した多くの活動が各所でみられる。

しかし、こうした伝統行事や祭礼のなかには、高齢化による担い手の減少をはじめ、少子化、経済事情、価値観の多様化、新旧住民の軋轢等による地域コミュニティの希薄化等、様々な要因によって活動の継承や伝承が困難になってきているものもみられる。事実、今泉延命寺^{いまいずみえんめいじ}で行われている都指定文化財(無形民俗)の双盤念仏^{そうばんねんぶつ}は、男性のみで講を組織することが一般的であり、一時は担い手不足で存続が危ぶまれたなか、女性の参入を進めたり、口承^{こうしやう}を原則としていた講に譜面^{ふめん}や録音テープを導入したりする等、後継者不足を補う工夫が行われている。

また、活動の継承や伝承が困難であると同時に、伝統行事や民俗芸能を支える太鼓^{たいこ}や鉦^{かね}、面^し、獅子頭^{しがしら}、装束^{しょうぞく}等の用具類の維持管理や修繕にかかる資金調達に苦慮している。

(5) 歴史・文化(歴史的風致)を活かした地域活性化に関する課題

歴史・文化を将来へ継承し、さらに歴史的風致として維持向上していくためには、歴史的建造物の所有者や活動の当事者だけでなく、地域住民や来訪者、さらには市街

地開発に関わる設計者や工事関係者等を含めた全ての人たちが、歴史・文化を認識し、価値を認め、周辺の市街地を含むまちづくりに対して意識を高め取り組んでいくことが大切である。

しかし、現在、大田区内における指定・未指定文化財の新たな掘り起しと価値付けが十分ではないこと、また、単体の文化財としてだけでなく、時代やテーマ、関係する人物等で関連付けた「文化財群」としての整理と情報発信が不足していること等から、区民や来訪者に対する「見える文化財」としての整備が行き届いておらず、結果として、地域活性化には、あまり結びついていないようである。

また、近年の訪日外国人観光客(インバウンド)の増加に対応するためのサイン案内板の多言語化や「やさしい日本語」の表記、さらには文化財等の歴史的建造物を活用した特別な会議やイベントの開催(ユニークベニュー)等、歴史・文化や歴史的建造物等の活用を通じた地域活性化への取組は、まだ十分に行えていないのが実情である。

3-2. 総合計画及び上位関連計画における 歴史的風致の維持及び向上に関する位置付け

本計画は、総合計画と計画間調整を図るとともに、大田区都市計画マスタープランと整合が取れたものとする。

そのうえで、大田区景観計画や大田区緑の基本計画グリーンプランおおた等の関連する計画との連携と調和を図り、歴史的風致を活かしたまちづくりを推進する計画として位置付けるものとする。

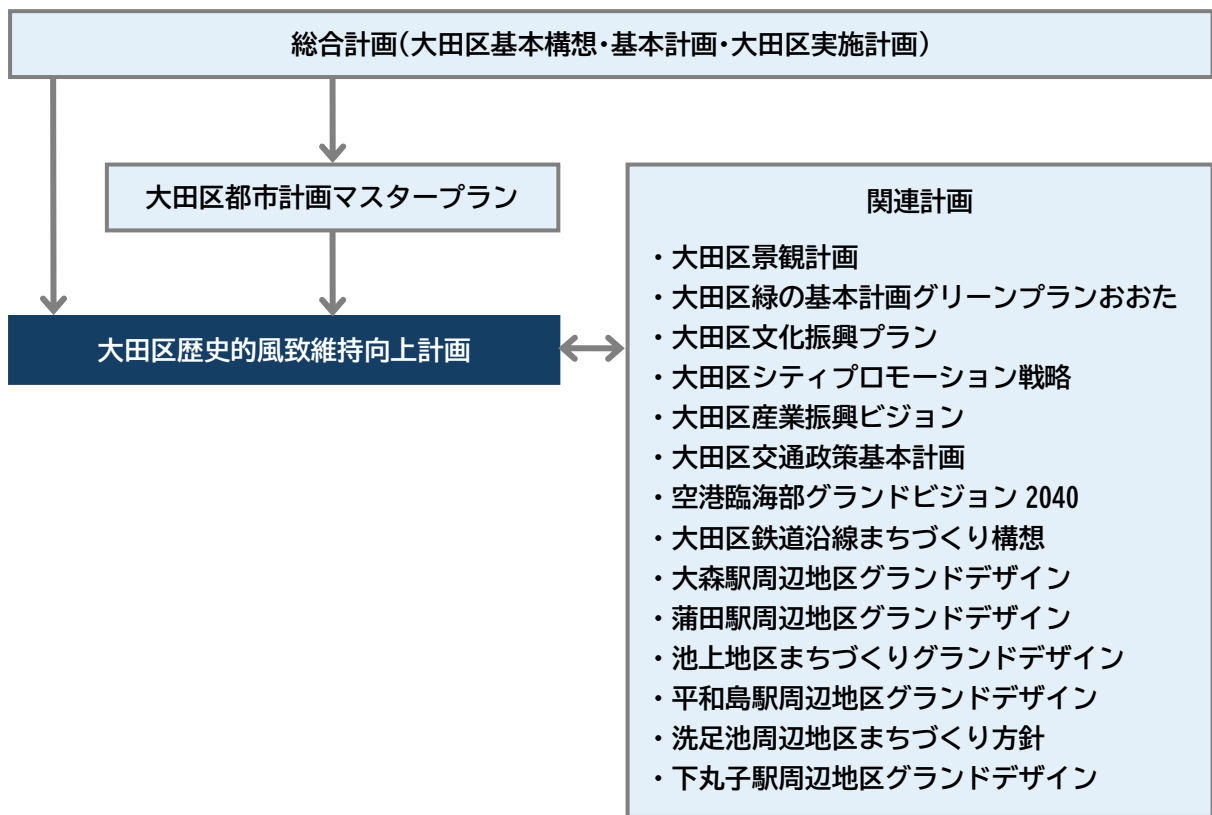


図 3-2-1 総合計画及び上位・関連計画との関係

(1)大田区基本構想 (令和6年(2024)3月策定)

大田区基本構想は、令和22年(2040)ごろの大田区のめざすべき将来像を提示し、今後のまちづくりの方向性を示した、大田区の最上位の指針である。

基本構想では、将来像を「心やすらぎ 未来へはばたく 笑顔のまち 大田区」と掲げ、将来像を実現するためのまちの姿として、4つの基本目標を定めている。

4つの基本目標のなかで、歴史や文化の保全・活用、また歴史まちづくりに関連するものとしては「2 文化を伝え育み 誰もが笑顔でいきいき暮らすまち」を定めており、多彩な文化や芸術、歴史や伝統が暮らしとともにあることで、心が潤い、豊かな感性が育まれている将来を描いている。

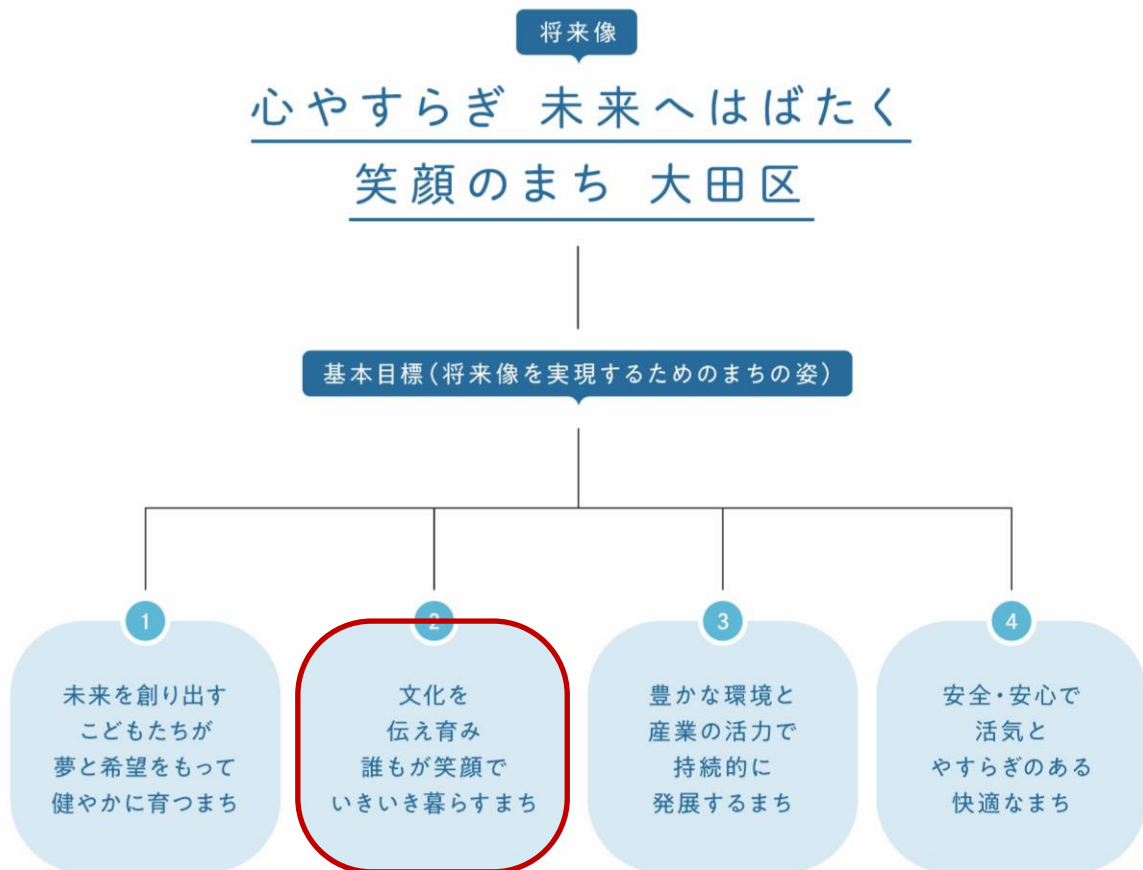


図 3-2-2 将来像と基本目標

将来像

2040年ごろ(令和22年ごろ)の大田区のあるべき姿として、以下の将来像を掲げます。

心やすらぎ 未来へはばたく
笑顔のまち 大田区



これまで築いてきた地域のつながりを大切にし、暮らす人・働く人・学ぶ人・訪れる人の誰もが、安心して心穏やかな日々を送ることができるまちをつくります。また、こどもから大人まで、誰もが夢や希望をもち、未来を切り拓くことができる活力あるまちをつくります。日々のやすらぎと未来への希望により、笑顔があふれるまちの実現をめざし、「心やすらぎ 未来へはばたく 笑顔のまち 大田区」を将来像として掲げます。

図3-2-3 将来像

基本目標

2 文化を伝え育み 誰もが笑顔でいきいき暮らすまち

心と体どちらも健康でいることは、いつでも充実感のある毎日を送ることに繋がります。そのためには、文化や芸術といった、心を豊かにしてくれるものとふれあい、それらを伝え育むことで、笑顔あふれる暮らしを送ることが大切です。また、すべての人々に活躍の場があり、つながりあえることで、元気に暮らせる社会をつくることも重要となります。こどもから高齢者まで、障がいの有無や、性別、国籍などにかかわらず、個性をお互いに認めあいながら、生涯にわたり、誰もが笑顔でいきいき暮らすまちをめざします。

一人ひとりに、社会の中での役割や生きがいがあり、誰もが自分らしい暮らしを送っています。

社会全体で包み込むように、変えよう考え方が日常に溢れ込み、つながりを感じるあたたかさあふれるまちになっています。

言語や慣習をはじめ、属性の異なる人々がお互いを尊重しあい、笑顔で自然に交流しています。

気軽にスポーツを楽しみ、健康づくりに取り組むことで、生涯にわたっていきいきとした生活を送っています。

多彩な文化や芸術、歴史や伝統が暮らしとともにあることで、心が潤い、豊かな感性が育まれています。

自由に学びを深められることで、質が高く心地よい暮らしを送ることができています。

図3-2-4 基本目標（歴史まちづくりに関連する部分を抜粋）

(2)大田区基本計画 (令和7年(2025)3月策定)

大田区基本計画は、計画期間を令和7年度(2025)から令和14年度(2032)までの8年間(第1期)とし、基本構想で掲げた将来像「心やすらぎ 未来へはばたく 笑顔のまち 大田区」を実現するための施策等をまとめたものである。

8年後の大田区のまちの姿として、「心豊かに日々の生活を送れるまち」「機能的な都市づくりが進むまち」「デジタル技術を活用した利便性の高いまち」の3つを掲げ、その実現に向けた28の施策を示している。



■施策の方向性

2 地域の文化資源の
保存・活用の推進

4 歴史文化
ALCC

11 文化資源
活用推進

区の貴重な財産である文化資源の掘り起こし、収集、記録、保存とともに、資料同士の有機的な結び付きに目を向け、歴史的事実の復原及び新たな事実の解明にも努めます。
区民が地域の文化に誇りを持ち次世代へ継承できるよう、文化資源を積極的に公開し、高齢者や子どもなど誰もが自由に文化を享受できる機会の充実を図ります。

図 3-2-5 施策の体系と地域の文化資源の保存・活用の推進について

(3)大田区都市計画マスタープラン（令和4年(2022)3月改訂）

大田区都市計画マスタープランは、2040年代を目標年次とした、中長期的な視点に立った都市の将来像を示し、その実現に向けた大きな道筋を示したものである。

将来都市像を「『暮らす・働く・訪れる』大田区らしい多彩な景色が人々を惹きつける」と定め、将来都市像を実現するための、ソフト施策とハード施策を織り交ぜた4つの都市づくりテーマを示している。また、4つの都市づくりテーマを踏まえて、6つの部門別方針、7つの地域別方針を示している。

こうしたなか、特に6つの部門別方針のうち、「5.住環境部門」で、「大田区らしい多彩なまちなみづくり」とした「景観都市づくり」において、景観形成の推進と合わせて、地域固有の歴史的・文化的資源をはじめとした多様な資源を活かしながら、まちづくりを進めることが示されている。

さらに、7つの地域別方針に関しては、「台地部地域」、「馬込・池上地域」、「大森地域」等で、産業、旧街道、社寺等の歴史・文化資源を活用したまちづくりの推進が示されている。

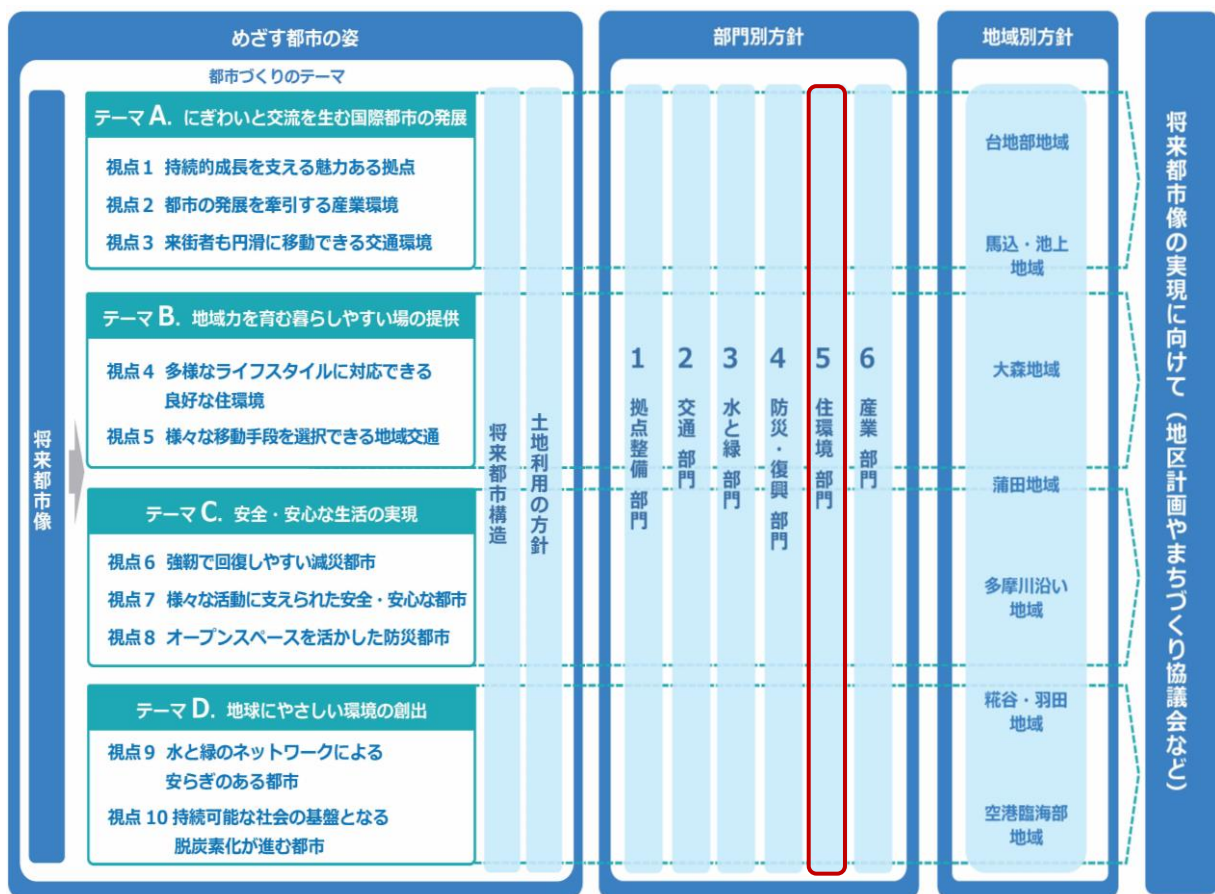


図 3-2-6 めざす都市の姿・部門別方針・地域別方針

住環境部門	1. 住環境施策の推進
	①地域の特性に対応した住環境の保全や改善
	②良好な住宅ストックの形成と住宅の質の維持・向上
	2. 多様なライフスタイルを支える都市機能の充実
	①子育て、健康と生きがい、高齢者の視点を取り入れた都市づくり
	②スポーツや健康のための環境整備と活性化
	③公共施設の効果的・効率的な施設マネジメントの推進
	④地域との連携・協働による都市づくり
	3. 誰もが利用しやすい公共空間づくり
	①ユニバーサルデザインに配慮した地域づくり
	4. 大田区らしい多彩なまちなみづくり
	①景観都市づくり
②景観づくりのための仕組みづくり	
5. 地域防犯力の向上	
①地域防犯活動の支援	
6. 環境負荷の少ない都市の形成	
①環境性能の高い建築物の誘導	
②建築物におけるエネルギー利用の効率化と災害への備え	
③住環境のスマート化	



4. 大田区らしい多彩なまちなみづくり (P.96 拠点整備・住環境・産業部門図参照)

①景観都市づくり

良好な住環境形成に寄与するとともに、国際都市にふさわしい景観づくりを進めます。

良好なまち並み形成

大田区立勝海舟記念館とその周辺道路

- ・ 地域特性を反映したきめ細かな景観形成の方針や景観法[※]に基づく届出制度等の運用をはじめ、様々な取組を体系的に進め、良好な景観形成を誘導します。
- ・ 景観形成にあたっては、自然・みどり資源、歴史的・文化的資源をはじめ、多様な産業や暮らしが育んできた大田区特有の景観資源を活かした景観づくりを推進し、大田区らしい眺望・景観づくりを進めます。
- ・ 良好な景観が維持されている地区又は今後さらに良好な景観形成を図る必要がある地区については、景観特性やまちづくりの動向に応じ、重点的に景観づくりを推進すべき地区として「景観形成重点地区」の指定に向け、検討や支援を進めます。
- ・ 緑豊かな住宅地や町工場に隣接した住宅地など、多様な住宅地が持つ生活文化を景観資源として捉え、暮らしに根差した景観づくりを進めます。
- ・ 住宅地としてのたたずまいや落ち着き、地形、まちのにぎわいなど、地域の個性を活かした景観形成により、区民の生活の場としての質を高めます。
- ・ 陸・海・空からの見え方に配慮するなど、国際都市として日本の玄関口にふさわしい景観の形成を進めます。
- ・ ライトアップをはじめ、周辺環境と調和した夜間景観の創出を検討します。
- ・ 屋外広告物の表示及び掲出については、周辺のまちなみとの調和を図り、良好な景観誘導を図ります。

図 3-2-7 部門別方針のうち、住環境部門に位置付けられている景観都市づくり

台地部 地域の 方針

緑豊かな低層住宅地や工場・倉庫などが混在する地区など、特徴ある住環境を維持・保全するとともに、歴史文化や自然環境などの地域資源を、憩いや観光の場として活用する都市づくりを進めます。



図 3-2-8 地域別方針のうち、台地部地域の方針

大森 地域の 方針

中心拠点である大森駅周辺の活力とにぎわいのある拠点形成を進めるとともに、低層住宅地や町工場が集中した工業地など、多様な地域の個性を維持しつつ、大規模公園やスポーツ施設などをまちの魅力づくりに活かしていきます。



図 3-2-9 地域別方針のうち、大森地域の方針



図 3-2-10 地域別方針のうち、馬込・池上地域の方針

(4)大田区景観計画 (平成25年(2013)10月策定)

大田区景観計画は、景観法に基づいて大田区全域を景観計画区域とした計画である。

目標を「自然環境、歴史、文化などの資源とともに、地域力を活かした世界に誇ることができる多彩で魅力的な景観のあるまちをめざします。」とし、4つの基本方針を示したうえで、7つの市街地類型や景観形成重点地区ごとに、景観形成方針をはじめ、届出対象行為(届出行為、届出基準)と景観形成基準を示している。

特に、4つの基本方針のうち「基本方針2 歴史と文化を活かした景観づくり」では、①歴史的な資源の集積を活かした景観づくり、②良好な住宅地形成の歴史を活かした景観づくり、③旧街道の歴史を活かした景観づくり、④多様な歴史資源を活かした景観づくりとして、大田区内の様々な場面(場所)において、歴史・文化資源を活かした景観形成について示されている。

6) 景観計画の構成

●大田区の景観計画は、以下の五つの章で構成されています。

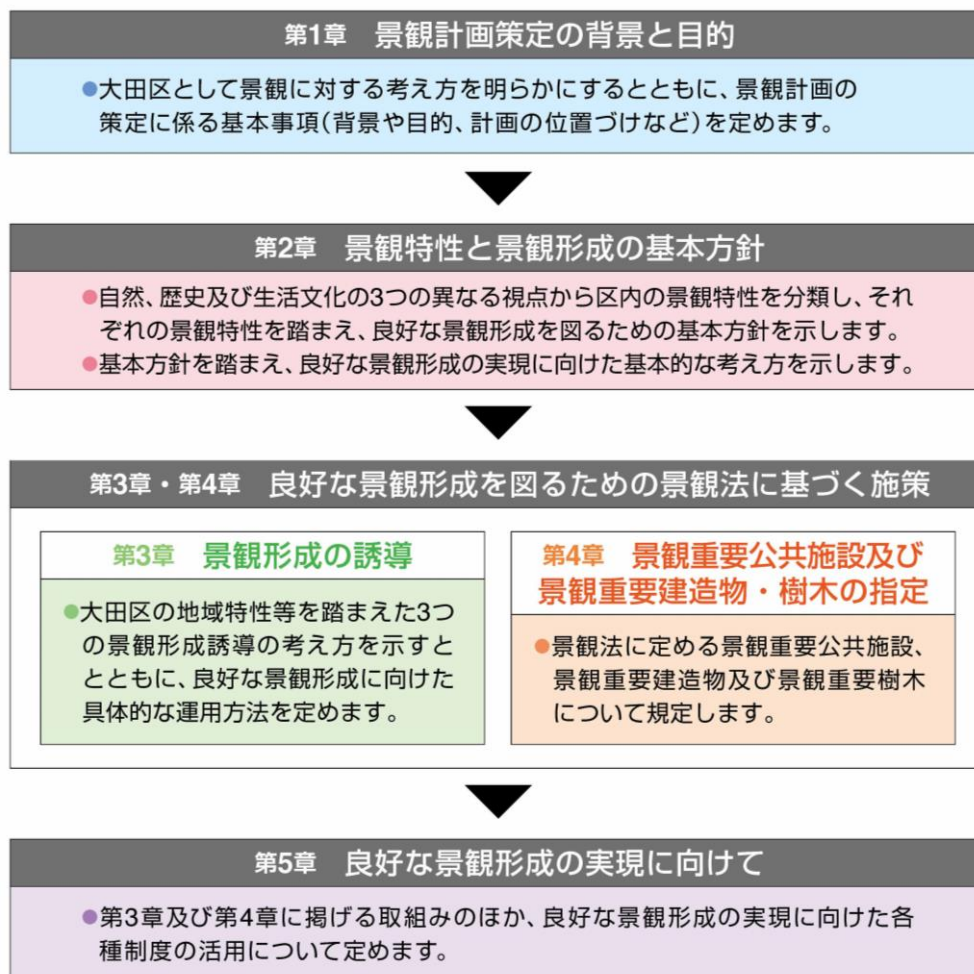


図 3-2-11 大田区景観計画の構成

■景観計画の目標

自然環境、歴史、文化などの資源とともに、地域力を活かした世界に誇ることができる多彩で魅力的な景観のあるまちをめざします。

■景観形成の基本方針

基本方針1 地形、水辺、緑などの自然を活かした景観づくり

- ①崖線の緑と調和した景観づくり
- ②地形の高低差に配慮した景観づくり
- ③多様な水辺を活かした景観づくり
- ④まとまりのある緑との連続性に配慮した景観づくり
- ⑤街なかの公園との連続性に配慮した景観づくり
- ⑥緑道・緑地を活かした景観づくり
- ⑦特徴ある街路樹や水路を活かした景観づくり
- ⑧緑豊かな住宅地の景観づくり

基本方針2 歴史と文化を活かした景観づくり

- ①歴史的な資源の集積を活かした景観づくり
- ②良好な住宅地形成の歴史を活かした景観づくり
- ③旧街道の歴史を活かした景観づくり
- ④多様な歴史資源を活かした景観づくり

基本方針3 地域の個性を育む景観づくり

- ①多様な土地利用に応じたきめ細やかな景観づくり
- ②区の中心拠点となる大森・蒲田のにぎわいのある景観づくり
- ③商店街のにぎわいに資する景観づくり
- ④「ものづくりのまち」の魅力を活かした景観づくり
- ⑤公共公益施設を活かした景観づくり
- ⑥多様な生活文化資源を活かした景観づくり

基本方針4 日本の玄関口にふさわしい景観づくり

- ①羽田空港及び羽田空港跡地・周辺地区における景観づくり
- ②大田区の特徴となる活力ある産業景観づくり
- ③運河を活かした水と緑の景観づくり
- ④空、海、陸からの見え方に配慮した景観づくり

(5)大田区緑の基本計画グリーンプランおおた (令和5年(2023)3月改定)

大田区緑の基本計画グリーンプランおおたは、平成23年度(2011)から令和12年度(2020)を目標年次とした20年間の、緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画であり、令和5年3月の改定は、令和5年度(2023)から令和12年度(2030)までの8年間の計画期間とする「第2期計画」である。

なお、大田区緑の基本計画グリーンプランおおたで用いる「みどり」とは、樹木、樹林、草地、草花等の「植物の緑」だけでなく、河川や海、池沼等の「水辺空間」、さらには公園や広場、道路、学校等の「公共空間」、家々の玄関先や庭、工場事業所、農地等の「民間の緑の空間」に加え、そこに息づくさまざまな生き物、まちなかの歴史・文化資源等、都市の環境、暮らし及び文化等を支える幅広いものとしている。

また、基本理念を「地域力が支える 空からも見える豊かなみどりを 未来を担う子どもたちに贈ります」とするとともに、将来像を「こころ豊かに住み続けられる『みどるあふれるまち』」、「多様なみどりが広がる世界に向けた『おもてなしのまち』」、「みどりがつながる『地球にやさしいまち』」として定めて、4つの基本方針に基づき具体的な施策を示している。

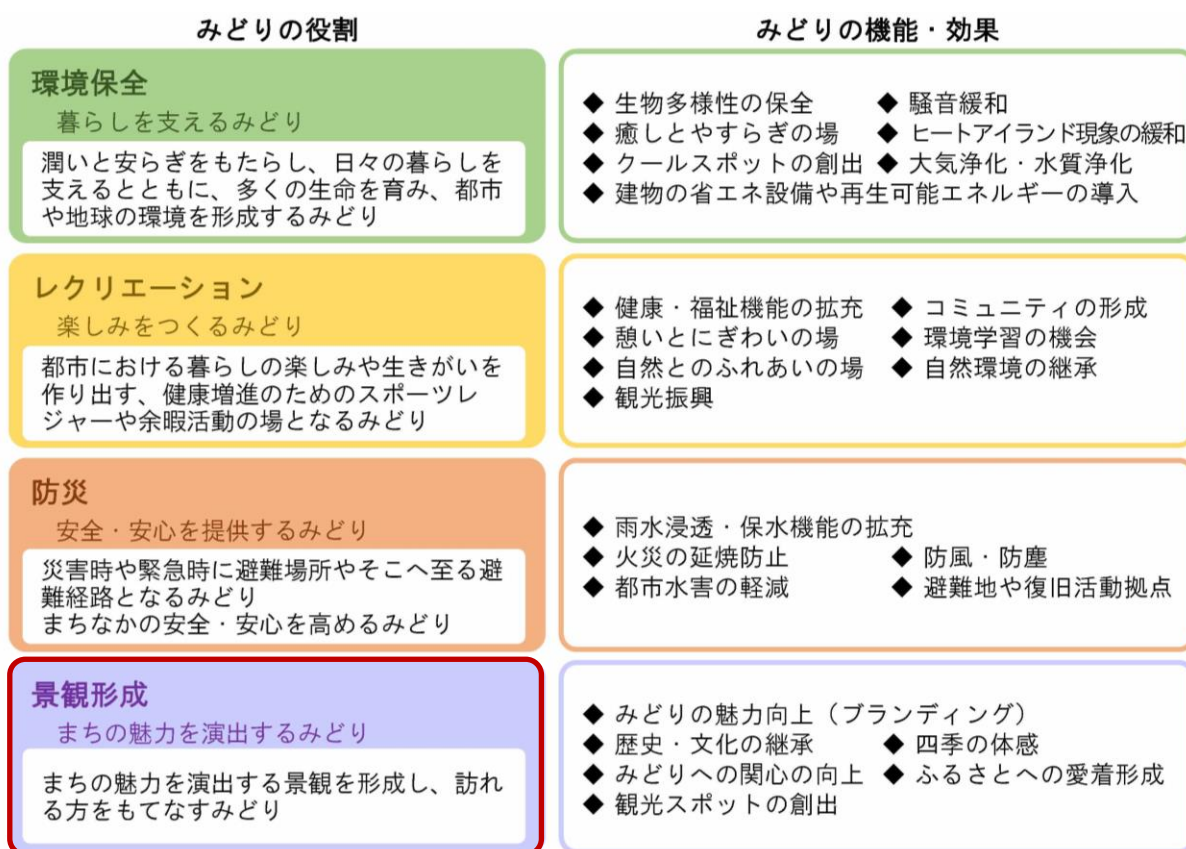


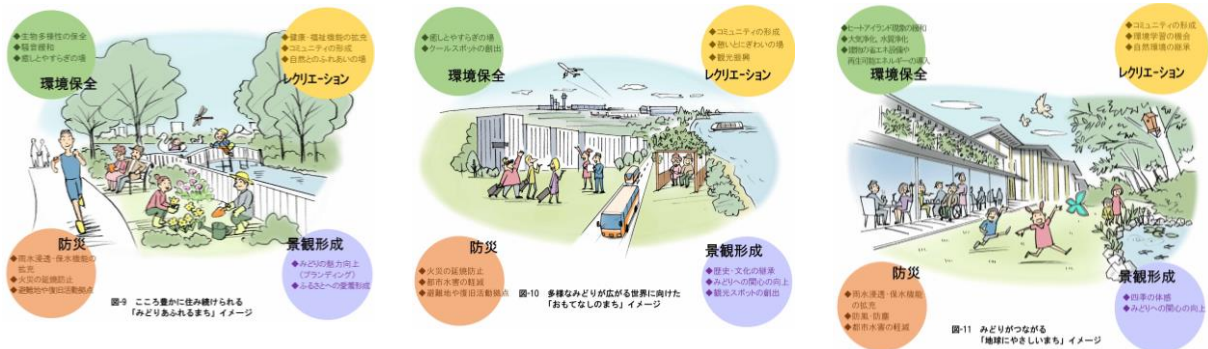
図3-2-12 みどりの役割

■緑の基本計画の基本理念

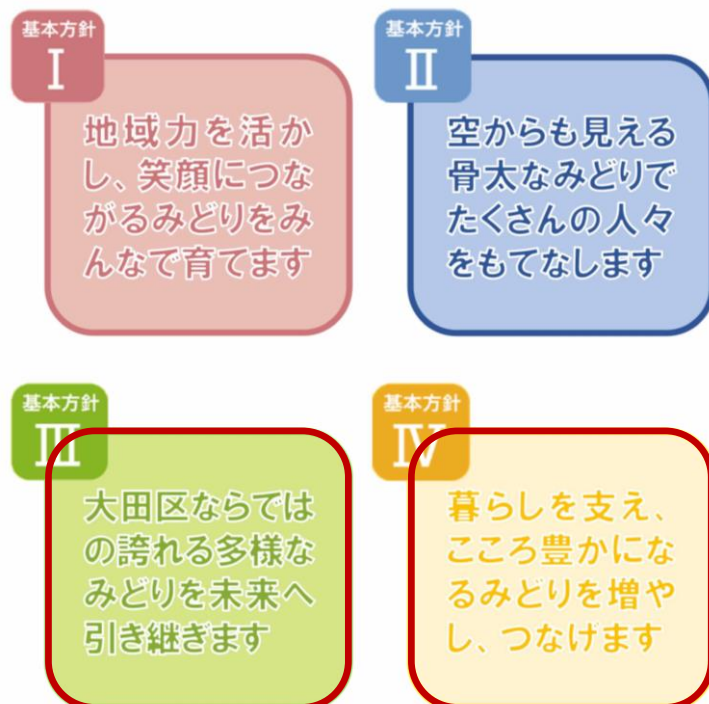
地域力が支える
空からも見える豊かなみどりを
未来を担う子どもたちに贈ります

■緑の基本計画の将来像

1. ころ豊かに住み続けられる「みどるあふれるまち」
2. 多様なみどりが広がる世界に向けた「おもてなしのまち」
3. みどりがつながる「地球にやさしいまち」



■緑の基本計画の基本方針



(6)大田区文化振興プラン (平成31年(2019)3月策定)

大田区文化振興プランは、大田区における文化の振興及び文化を通じたまちづくりの基本的な考え方と施策の指針を示したものである。計画期間は、当初、令和元年度(2019)から令和5年度(2023)の5年間であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて2年延長され、令和7年度(2025)までとなった。

まちの将来像を「文化を愛し育み創造する、にぎわいのあるまち大田区～地域力を活かした多様な文化とのふれあい～」とし、3つの基本目標を掲げる。そのなかで、特に「②区民とともに文化をつくり、発信する」では、地域文化の保存・継承・活用として、「地域の歴史や文化資源の再発見と保存・活用」と「伝統文化の保存・継承・活用」を示し、博物館や記念館を中心とした取組や文化財の保存・保護に努めて啓発活動を行っていくことを示している。【令和8年(2026)3月に改定予定※】

※新たなプランでは、さまざまな分野における社会課題解決へのアプローチに大田区の文化資源を活用していく総合政策としての視点を取り入れ、計画の名称を「大田区文化芸術推進プラン」に変更予定である。

(7)大田区シティプロモーション戦略 (令和7年(2025)3月策定)

大田区シティプロモーション戦略は、令和7年度(2025)から8年間を対象とした、大田区の魅力を発信し、住み続けたいまちづくりを推進するための計画である。

あるべき姿としての「持続可能な大田区」の実現が掲げられ、特に、子育て世帯を中心とした区民を主要ターゲットにブランド力の向上を図ることが示されている。将来像やテーマの方向性として、大田区の魅力を5つの「大田区の暮らし」(世界の近さ、豊かな自然、充実した子育て環境、あたたかい人とのつながり、魅力ある文化・芸術)として示し、ブランドメッセージ「わくわくに翼を」でプロモーションを展開していくことが示されている。本戦略では、魅力的な文化・芸術や歴史に触れる暮らしが取り上げられている。

(8)大田区産業振興ビジョン (令和6年(2024)3月策定)

大田区産業振興ビジョンは、令和6年度(2024)から令和15年度(2033)までの10年間を計画期間とし、大田区内産業の目指す姿やその実現に向けた施策の方向性等を示した計画である。

目指す将来像を「稼ぐ力を創出し、豊かな地域経済が未来に引き継がれるまち」としたうえで、基本方針を「変革」「集積」「連携」の3つを掲げて産業振興に取り組むことが示されている。特に、商業・観光産業の目指す姿と産業振興として、活気あ

ふれる町工場や情緒を残す銭湯等、従来からの集積による魅力に加えて、今後発展が期待される他分野の要素と有機的に関連付けて、相乗的な価値を創出していくことが示されている。

(9)大田区交通政策基本計画 (令和6年(2024)3月見直し)

大田区交通政策基本計画は、羽田空港跡地の再開発(HANEDA GLOBAL WINGS)、JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅を結ぶ新空港線(蒲蒲線)等を見据え、大田区内の交通が大きく変化するなか、交通利便性を強化し、安心・持続可能なまちづくりを進めるために策定された計画である。

理念は「大田 G2C 2030(Ota Global to Community)」で、世界と地域をつなぐ交通の整備を目指す。基本目標は「暮らし」「都市の活力」「環境」の3つで、それぞれ暮らしやすい移動、都市の活性化を支える交通、環境負荷の少ない安全な交通を掲げている。また、ハードとソフト両面に対応し、多様な主体(行政、区民、事業者、大学等)の連携を柱としている。

(10)空港臨海部グランドビジョン 2040 (令和4年(2022)3月策定)

空港臨海部グランドビジョン 2040 は、空港臨海部を対象に、2040 年を見据えた長期的なまちづくり指針である。2040 年の将来像として「多様な人々が交流・挑戦する“未来型創造都市”～世界へはばたく空港臨海部～」を提示し、基本方針には、①高度産業の集積拠点化、②人の活動と自然との調和、③次世代インフラ整備等が示されている。また、これらの基本方針に沿って、産業・物流・空港・港湾・防災・自然環境・脱酸素・観光・レジャー等に関するプロジェクトテーマと34のプロジェクトが設定され、各種の整備や取組が示されている。

特に、水辺や水域のにぎわい創出、既存の観光コンテンツの活用、見て触れて楽しめる周遊ルートの整備等、海と緑のレジャーをはじめとする観光振興策等が示されている。

(11)大田区鉄道沿線まちづくり構想 (令和6年(2024)3月策定)

大田区鉄道沿線まちづくり構想は、新空港線(蒲蒲線)整備を契機に、沿線地域全体の持続的なまちづくりを目指し、大田区内の各鉄道駅周辺を対象に「沿線とともに発展するまち」「東京と世界をつなげるまち」を描く長期構想である。

将来像に「東京と世界をつなげるまち・おおた」を掲げ、新空港線により人の流れが変容し、駅ごとに特色を活かしたまちづくりが進み、大田区内外、ひいては世界と

つながる交流と創造あふれる沿線都市の実現が掲げられている。2030年代から2050年頃までを目標期間とし、沿線全体を「広域連携軸」として位置付け、エリア別構想や交通・環境・防災・産業等に応じた部門別方針も示されている。

(12)大森駅周辺地区グランドデザイン（平成23年(2011)3月策定）

大森駅周辺地区グランドデザインは、大森駅東西の特徴やまちの課題、周辺の状況の変化に対応しながら、地域住民・事業者・行政が一体となってまちづくりを進めていくため、総合的・長期的な視点で駅を中心とする地区の将来像を掲げ、これを実現させるまちづくりの方針に基づいた取組を示したものである。

まちの将来像として「歴史と文化と浜風かおる いきいきとした心地よい『大森』」を掲げ、市街地形成の歴史と土地利用状況等を考慮し、「浜風かおるにぎわいエリア」及び「文化かおる緑のエリア」を対象エリアとして位置付けている。

いずれのエリアにおいても、大森海苔や旧東海道、大森貝塚や馬込文士村等、各エリア内の歴史・文化資源の魅力再発見や発信により、来訪者が楽しめるまちづくり、歴史・文化を継承・発信できるまちづくりに取り組むことが示されている。

(13)蒲田駅周辺地区グランドデザイン（令和4年(2022)4月策定）

蒲田駅周辺地区グランドデザインは、「大田区都市計画マスタープラン」と整合させ、蒲田駅を中心とする地区の総合的・長期的な将来像とまちづくり方針を示す計画である。

まちの将来像として「にぎわいあふれる多文化都市、誰もが安心して気持ちよく過ごせる人にやさしい蒲田」を掲げ、その実現に向けて、地区内拠点や都市骨格軸を設定するとともに、まちづくりの方向性を示している。

JR・東急蒲田駅前拠点では「交通結節機能の強化」を示し、京急蒲田駅前拠点では「来街者を魅了する駅前拠点の形成」が示されている。また、2つの拠点をつなぎ、さらに西方に延びる都市骨格軸は、商業等が連続し、にぎわいの広がりをつくる「歩いて楽しいストリークの形成」が示されている。

(14)池上地区まちづくりグランドデザイン（平成31年(2019)3月策定）

池上地区まちづくりグランドデザインは、「大田区都市計画マスタープラン」や「おおた都市づくりビジョン」と整合を図りつつ、池上地区(池上駅周辺から池上本門寺地域を含む)を対象に、魅力的で、より良いまちの形成に向けた指針を示したものである。

将来像を「歴史・文化・自然を大切にし、にぎわいあふれ、区民や来訪者が快適に過ごせるまち」とし、その実現のための基本方針として「歴史・文化・自然との共生」「にぎわい創出」「安全で快適な暮らしの確保」「協働で進めるまちづくり」を掲げている。特に「歴史・文化・自然との共生」では、歴史的建造物が集積する池上本門寺周辺の、門前町としての沿道ファサードの整備や、総門から池上通りまでの参道整備の検討等、景観整備を進めることが示されている。

(15)平和島駅周辺地区グランドデザイン（令和7年(2025)3月策定）

平和島駅周辺地区グランドデザインは、平和島駅を中心とする平和の森公園等大規模公園を含む範囲を対象エリアとし、誰もが住み続けられるまちづくりに関する指針を示したものである。

まちの将来像を「東海道の風情と浜風を感じ、未来に向けて自分らしく過ごせる平和島」とし、その実現のための方針として「駅前機能の充実」「にぎわいの創出」「回遊性の向上」「安全・安心の確保」「住み続けられるまちづくり」を掲げている。特に「にぎわいの創出」では、景観を阻害する要因の解消等、歴史資源を活かしたまち並みの形成を図るため、大田区景観計画に基づく地域の歴史・文化を活かした景観づくりに取り組むことが示されている。

(16)洗足池^{せんぞくいけ}周辺地区まちづくり方針（令和2年(2020)3月策定）

洗足池周辺地区まちづくり方針は、洗足池や洗足池公園といった水と緑が豊かな自然環境や、勝海舟^{かつかいしゅう}記念館といった歴史的建造物が立地する等、様々な地域資源が豊富である洗足池駅周辺地区のさらなる魅力向上や駅周辺のにぎわいの創出、良好な住環境の維持保全、景観形成を進めていくための地区まちづくりの方向性を定めるものである。

将来像を「水、緑、歴史・文化とともに、豊かに暮らしていける まんぞく・じぞく・洗足ライフ」とし、その実現のための基本方針として「豊かな自然環境との共生による地区まちづくり」「歴史・文化資源の保全・活用による、魅力ある地区まちづくり」「多様な生活環境が整い、快適にいつまでも暮らせる地区まちづくり」「防災・安全機能等の向上による、だれもがほっとする地区まちづくり」を掲げている。

「豊かな自然環境との共生による地区まちづくり」では、本地区の最大の資源・魅力である洗足池が有する自然豊かな環境の保全、より快適な憩いの場等としての機能強化や、「歴史・文化資源の保全・活用による、魅力ある地区まちづくり」では、勝海舟記念館や社寺等の歴史・文化資源の保全と積極的な活用等が示されている。

^{しもまるこ}(17)下丸子駅周辺地区グランドデザイン（令和8年(2026)3月策定）

下丸子駅周辺地区グランドデザインは、令和5年(2023)3月に策定した下丸子駅まちづくり構想で掲げる下丸子駅周辺地区のまちづくりコンセプトの実現に向け、より具体的な取組を位置付けたものである。

おおよそ20年後の本地区のあるべき姿として、まちづくりコンセプト「空港につながり、職・住・憩い・にぎわいが集まるまち～新たな価値を生み出すまち・クリエイティブタウン～」と、4つの目指すまちの姿「居心地が良くなるウォーカブルなまち」「多様な交流からイノベーションや産業がはぐくまれるまち」「豊かなくらしを実現する活動・場が充実したまち」「地域・企業とともにつくり・つかう「共創」のまち」を設定し、その実現に向けたまちづくりの取組方針を整理している。

「居心地が良くなるウォーカブルなまち」では、鉄道の南北をつなぐ歩行者ネットワークの形成や、歩行者環境の充実、「豊かなくらしを実現する活動・場が充実したまち」では、本地区内に立地する歴史・文化施設や公園等の公共施設、多摩川河川敷やまちなかのみどりを資源とした交流や活動のための場づくりに取り組むこと等が示されている。

3-3. 歴史的風致の維持及び向上に関する方針

歴史的風致の維持及び向上に関する方針は、「3-1. 歴史的風致の維持及び向上に関する課題」を踏まえて、以下の5つに整理する。

(1) 歴史的建造物や伝統行事等の認知度向上に関する方針

歴史的建造物や伝統行事等の認知度向上を図るため、指定・未指定文化財等に対して学術的調査を実施し、各資源の歴史的意義や文化的価値を明確化する。その成果を活用してデジタルアーカイブの整備やパンフレット、ウェブサイトでの情報発信を強化し、普及啓発に努める。

また、地域住民と連携し、ガイドツアーや体験型イベントを開催することで、歴史・文化資源への関心を高めるとともに、伝統行事や歴史的建造物の公開を通じて、歴史・文化資源の魅力を発信して地域内外の人々の理解を深める機会を創出する。

(2) 歴史的建造物の保存・活用の推進に関する方針

歴史的建造物の適切な保存・活用を推進するため、未指定文化財を含めた歴史的建造物に対して調査を行い、保存等の優先度を明確化する。そのうえで、所有者への支援策として、文化財指定による修繕費の補助や専門家による維持管理の助言を提供し、保護意識の向上を図る。

また、市街地の開発が進むなかで解体や改変が行われないよう、歴史的建造物の位置や価値を把握するための調査とデータベース化を行い、土地利用計画等との調整を進める。さらに、建造物所有者の負担を軽減するため、各種の補助制度を活用し、技術的・財政的支援を行うほか、所有者の相談に応じる等、行政と地域住民との協力体制を強化し、歴史的建造物の保存を促進する。

活用面では、歴史的建造物に対する耐震補強やユニバーサルデザイン化を必要に応じて進める。また、駐車場やトイレ等の便益施設の整備や、案内表示やデジタル技術を活用した情報発信を充実させる。

(3) 歴史的建造物の周辺環境の保全と向上に関する方針

歴史的建造物の周辺環境の保全と向上を図るため、大田区景観計画に基づいて歴史的建造物との調和を図る景観形成の方針を明確化し、そのうえで、民間建築物だけでなく、公共建築物や道路、公園、河川といった公共施設の整備においても、景観重要

公共施設の制度を活用して歴史的建造物との調和を考慮した景観形成基準等の検討を進める。

また、開発が進む地域では、建築物の高さや外観、緑化等の景観誘導策を強化し、歴史的風致の維持と向上を図る。さらに、地域住民や事業者と連携し、景観保全に向けたガイドラインの策定を検討する等、持続可能な環境整備の促進を図る。

(4)人々の歴史や伝統を反映した活動の継承と活性化に関する方針

歴史や伝統を反映した活動の継承と活性化を図るため、各地域の伝統行事や民俗芸能の実態把握を行い、担い手不足や資金調達の課題について整理する。そのうえで、世代や性別を超えた参加を促す仕組みを構築し、新たな担い手の育成等に努める。

また、学校や地域団体と連携して伝統行事等の体験機会を提供することで、若年層の関心を高める。さらには、太鼓や鉦、面、獅子頭、装束等の用具類の修繕や維持管理のための助成制度を充実させ、経済的負担を軽減する。加えて、デジタルアーカイブの活用や情報発信を強化し、広く伝統文化の魅力を発信することで、地域の歴史・文化の継承を促進する。

(5)歴史・文化(歴史的風致)を活かした地域活性化に関する方針

歴史・文化を活かした地域活性化を図るため、指定・未指定文化財の調査を進め、新たな価値付けを行うとともに、時代やテーマごとに関連付けたストーリー性のある周遊ルートの設定等「文化財群」として整理し、一体的な整備と情報発信を強化する。

また、区民や来訪者が歴史・文化に親しめる環境を整備するため、多言語対応の案内板の設置に加え、日本語に不慣れな訪日外国人観光客等にも理解しやすい「やさしい日本語」を活用した解説を提供し、文化財や歴史的建造物の魅力を伝える。さらに、歴史的建造物を活用した特別イベントやツアーの開催、ユニークベニユーの促進により、地域資源の魅力を高める。

市街地開発に関わる設計者や工事関係者に対しては、歴史的風致を尊重した設計・施工を推奨するためのガイドライン等の策定を検討し、文化財周辺の景観調和や歴史的建造物の保全を促進して地域活性化のきっかけとする。

3-4. その他の歴史・文化資源に対する取組方針

「1-5. その他の歴史・文化資源」に示したように、「その他の歴史・文化資源」は、「指定、登録または選定文化財」や「未指定文化財」とともに体系的に整理し、今後の歴史まちづくりを進める際の手がかりとする。

その際、人々の営みのなかで生まれ、育まれてきた各種資源に光を当てて顕在化させ、保存・継承への意識を高めていくことが重要である。

このため、資源のデジタルアーカイブ化や映像・記録による保存を進め、未来に伝える仕組みを構築するとともに、学校教育や生涯学習の場で積極的な活用を図る。

また、観光やまちづくり施策と連動させて地域の魅力を発信し、来訪者や住民の誇りを醸成する機会とする。さらに、これらの「その他の歴史・文化資源」については、将来的に、その価値を丁寧に見極めつつ、必要に応じて「指定、登録または選定文化財」として位置付けることも視野に入れ、歴史的風致を構成する資源として活用する。これにより、地域の歴史的景観や物語性を豊かにし、まち全体の歴史的風致を一層充実させていくことをめざす。

3-5. 歴史的風致維持向上計画の実施体制

「大田区歴史的風致維持向上計画策定協議会」は「(仮称)大田区歴史的風致維持向上計画推進協議会」と改編し、計画(事業)の進捗確認のほか、重点区域の変更や追加、新たな事業の追加等、計画変更に関する検討事項があった場合の協議を行う。

また、「大田区歴史的風致維持向上計画策定庁内検討委員会」は「(仮称)大田区歴史的風致維持向上計画推進庁内委員会」と改編し、行政内部の計画(事業)実施に関する進捗管理と連絡調整等を行う。

その他、事業の実施等に関しては、国・都等の関係機関や各種関連団体等との連携により進めていくものとする。

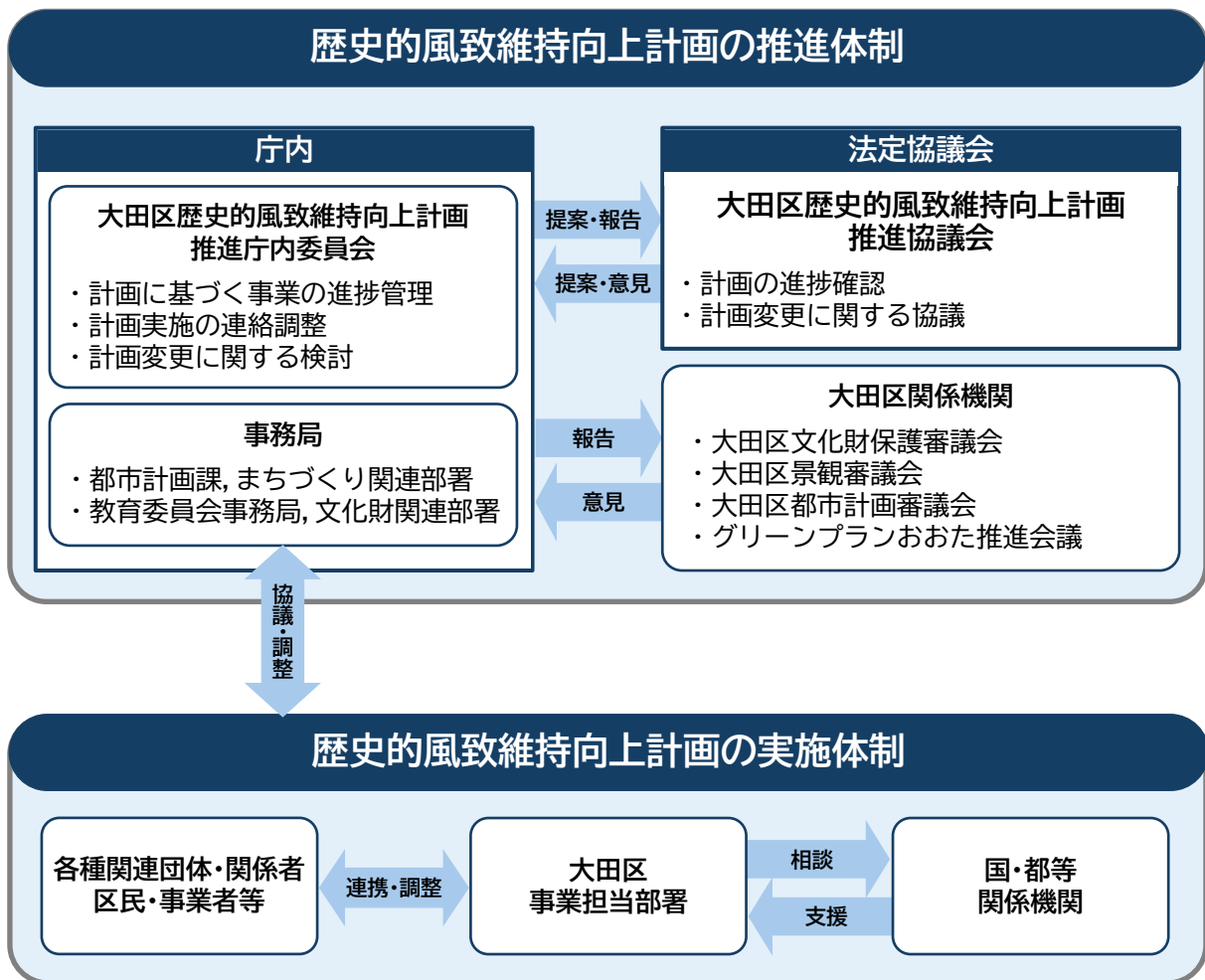


図 3-5-1 計画の実施体制